

## 第20回 かたの環境を考える委員会

### ■概要

- ・日時：2011年7月19日（火） 18:30～20:30
- ・場所：交野市役所 別館3階中会議室
- ・テーマ：〔課題の設定／企画作りを学ぶ／プロジェクトを立案する〕

### ■進行・内容

★18:30 交野市環境保全課長より開会の挨拶。

台風の影響により通常より1時間早く閉会することが伝えられた。

★18:33 環境市民事務局長 堀孝弘より挨拶。

環境基本計画ができるまでの（ロードマップ）の説明

★18:36

各グループで、課題の設定／企画づくりを学ぶ／プロジェクトの立案

各グループで、連絡事項を確認（次回の委員会日、仲間づくり、幹事の選出）。

★20:40 終了



### ■グループ議論の詳細

#### 【エネルギーグループ】

#### 1. エネルギーグループ議論のふりかえり

前回までのエネルギーグループの議論、進行状況について再度共有した。

#### 2. 前回（第19回）出された宿題の確認

各自、前回の宿題を発表し、グループ内で意見を出し合った。

#### 「自転車レンタルなど先進事例、成功事例など調べ」

- ・ 場所（空間）が必要。駅から200～300メートルであれば補助金を出す市もある。
- ・ 自転車を整備するにはまちづくりの視点が必要。
- ・ 補助金、運営資金の問題がある。
- ・ 自転車道をどのように設置していくのかの課題がある。
- ・ エネルギー部会だけではなく、まちづくりの観点から考えなければいけない。
- ・ 自転車レンタルをプロジェクトとして具体化させるのは難しい。

〈グループ内意見〉

- ・自動車以外（徒歩や自転車、公共交通機関）で店に行くと何か得点がつくような仕組みづくりを検討してはどうか（スタンプをためて何か得点をもらうなど）。初期投資はいらないし、店と協力関係で広められる。
  - ・自動車を生活から消した人もいれば自動車が生活を支配する人もいるので、どんな暮らし方をしようとしているかという視点が大事。
  - ・交野線で乗り放題の1 Day チケットがあり、スタンプラリーの企画はある。自動車が生活の一部である人が無理に使用をやめることはないが、公共交通機関（バスなど）の利便性があるといい。
  - ・ゆうゆうセンターでいろいろな年代の人にアンケートをしたところ、お年寄りも、電動自転車を利用している人が多かった。自動車でも大型から効率性の良い小型へ変えている傾向だ。
  - ・世代によって考え方は違う。自動車もバスも年齢によって利用の仕方を変えていくのがいい。
- ⇒自動車以外の利用で得点がつくような事例を調べてきてもらう。

「NPO 北河内エコエナジーが開発している風力発電機の効果や実績調べ」

- ・ハイブリット式マイクロ風力発電機で、施工全部で300万必要。太陽光パネルと併設で300Wしか発電できない。太陽光のように10年でもとをとることはできない。
- ・地域密着型（地元企業）の技術を啓発する方向が大きい。

〈グループ内意見〉

- ・公共施設に設置することは可能性として考えられないか。
  - ・普及の可能性は低いと考えるが、北河内エコエナジーと何らかの協力をしていければと思う。風力も大事なエネルギーであるという啓発的な意味での普及はあるだろう。
  - ・発電機のまわりに企業の広告をつければ、設置費も払えるのではないか。
- 結論⇒この風力発電機をプロジェクトとして広げていくことは現状では保留。

「太陽光発電、太陽熱利用、高効率機器、その他の再生可能エネルギーの良いところを組み合わせさせた案を考える」

- ・上記の項目ごとに補助金、導入スキーム、啓発、その他特記事項の内容を表で説明。

〈グループ内意見〉

- ・すでに交野で太陽光を広めようとしている方の活動と別物をつくるのではなく、良い相互関係がつかれないか。
- ・市民のそれぞれの持っている力、得意技が洗練され、発揮できるプロジェクトのスタイルを望みたい。

- ・ 交野の中で先進的に活動されている人から活動内容をしっかり聞くのが先ではないか  
⇒既存の活動をされている方の情報集め、整理、実際の動きを調べ検討する。

☆次回は、幹事選出およびグループビジョンの設定。

## 【エコ生活グループ】

### 1. 企画の立て方を学ぶ

まちづくりグループと合同で企画の立て方を学んだ。

### 2. 課題の具体化

以下2点の課題の具体化を行った。

#### 課題③ エコライフをしよう

- ・ さいふにやさしいことを意識しよう
- ・ エコライフとは、をみんなで知る機会をつくる  
(具体的なアイデア)
- ・ エコアイデア「暮らしの知恵」を募集する
- ・ エコライフチャレンジコースをつくる
- ・ 私の自慢エコスタイル発表会



#### 課題④ 環境問題を学んで実行しよう

- ・ 環境問題を親子で学ぶ (おじいちゃん、おばあちゃんの知恵をいかす)
- ・ 環境問題はいろいろな問題に通じる

環境教育と〇〇教育をコラボして環境に興味のない人もまきこむ

例) 廃油キャンドル (お祭り、人権、国際教育) ×環境

※カタめ、やわらかめ、講座いろいろあってよいのではないか。

(具体的なアイデア)

- ・ 交野版エコライフ本

### 3. プロジェクト化するテーマとプロジェクト立案担当一覧

ごみを減らす、という課題に対する具体化として、①必要なものだけを買う、②使い捨て商品を買うのを減らす ③買ったものを使い切る が挙げられていたが、これら3点は、環境学習プロジェクト、エコ生活がしやすいモノの売り方プロジェクトで解決していくこととなった。

### 1) 環境学習プロジェクト

◇該当する課題：環境問題を学んで実行しよう、ごみを減らそう、エコライフをしよう

◇対象：市民（親子）、事業者

- ・大量生産、大量消費ではない、シンプルな暮らし方、エコライフを知ってもらえる機会をつくる
- ・節約にもつながるといったメリットを伝える。
- ・やわらかめ、かための内容を含む。

### 2) エコ生活がしやすいモノの売り方プロジェクト

◇課題：ごみを減らそう、エコライフをしよう

◇対象：企業、(市民)

- ・企業のメリットにもなることを伝える

### 3) どうしても出たごみの有効利用

◇課題：どうしても出たごみの有効利用（例：生ごみの堆肥化）

◇対象：未定

参考) 交野市の厨芥ごみの内訳をみると 31%が調理くず、7%がたべのこし、1.5%が未開封ごみ。交野市の4Rを基本におきつつ、ごみの発生をいかに防ぎつつ、最終手段としての堆肥化をすすめていくか検討する。

※欠席者は、希望するところに参加してもらおう。

☆宿題：各自担当となったプロジェクトを考えてくる

次回は、考えてきたプロジェクトを共有する。

## 【まちづくりグループ】

### 1. 「企画の作り方」を知る

エコ生活グループと一緒に企画の作り方についての説明を聞く。

### 2. 残っている問題についての議論

<議論の内容>



「安全・防災」を環境の切り口で考えた時、どのように考えればいいのか？

<結論>

・まちづくりに「安全・防災」の視点は大事、ただしプロジェクトの目的を達成してゆくプロセスの中で、あるいは結果（波及効果）として「安全・防災」に結びついてゆくはず。地域の人たちのコミュニケーションが深まれば、結果として安全や防犯につながってゆく。

◇事例紹介

「星田山手1丁目の土のう積みの例」

傍示川の盛り土が長年の風雨により流出している箇所が地域にあった。その箇所を府・市、地域住民、事業者の協働で防腐補強杭、防腐補強版を使用して盛り土の補強（防災対策）を施した。（環境的にも景観的にも配慮したもの）作業に至るまでの打ち合わせ、会議、準備段階から、下草刈りから、盛り土などの作業にも地域の人たちがボランティアで参加した。この作業を通じて地域の人たちのコミュニケーションも深まった。

### 3. 企画づくり

課題「地域で子どもたちを育てる環境づくり」を解決するために、どのようなプロジェクトが考えられるのか、意見を出し合った。

・目的（効果）、主体者、対象、波及効果などについて意見交換し、どのような手法があるのかは各自で考えてくることとした。

◇事例紹介

「学校、地域、農家などがいっしょになって行っている生ごみ堆肥の循環」

- (1) 自宅で出た野菜くずを学校に持って行き堆肥化する。
- (2) 地域の農家の畑を借りて芋づくりを行う際に学校で作った堆肥を使う。
- (3) 収穫は学校、子どもたち、保護者、地域の農家などが一緒に行う。
- (4) 環境教育、食育などへの成果があった。
- (5) 波及効果：保護者への好影響、地域の人たちどうしや、大人と子どものコミュニケーションが深まった。

☆宿題：「地域で子どもたちを育てる環境づくり」のためのプロジェクトの内容・手法を各自で考えてくる。次回は、宿題を元にプロジェクトを考える。

## 【自然環境保全グループ】

### 1. 宿題の発表および意見交換

宿題にしていたプロジェクト考案シートについて、各自の案を発表し、意見交換しあった。

- ・交野市の活性隊
- ・きこり講座／交野竹取物語
- ・交野里山の竹藪に住み場所を！
- ・日本一きれいな交野の山
- ・地権者とボランティアとの保全活動の仕組みづくり（交野遺産をつくろう）
- ・水量の豊かな河川を取り戻す
- ・交野の生物調べ隊
- ・環境フェスタの開催

## 2. 各プロジェクトの見直しの方針の紹介およびプロジェクト間の関係を考える

プロジェクトの一覧表と「プロジェクトを見直してみよう！」シートを見ながら、このまますべてがプロジェクトになるわけではなく、それぞれの実現可能性や統合なども考えて、グループとしてのプロジェクトをつくっていくということを説明した。

## 3. 委員のあり方・仲間の増やし方について意見交換

今後、この委員会の仲間を増やしていくことを提案し、意見交換をした。

仲間を増やすということ自体に反対はなく、周囲の人を誘う、広報に載せるという案が出た。しかし、最初にレポートを書いた人と書かずに委員会に入った人がいることにこだわっている人がいるため、その人が納得できるようにみんなで話し合っただけで決める必要があるという提案があった。

☆宿題：「プロジェクトを見直してみよう！」シートを参考に、プロジェクトの一覧表を見ながら、それぞれの実現可能性や統合なども考え、どんなプロジェクトをつくれればいいのか見直しをしてもらうこと。次回は、宿題を元にプロジェクトを考える。

以 上